

．専攻科目の特徴と履修

1．専攻科目の特徴と履修

(1) 専攻科目の特徴

本学部では、1989年度の創設当初より、国際経営の研究と教育を3つの基本軸によって立体的、体系的に構成し、研究と教育を実践してきた（前述Ⅰを参照）。この研究・教育体系を図示したものが図表1「立体的研究・教育体系」である。同体系では、国際経営を機能、環境、および地域という3つの軸で考えている。

第一の機能軸は、マネジメントに直接関係する分野（経営戦略、経営組織、および販売、購買、生産、研究開発、人事・労務、会計、財務、広報、法務などの経営諸機能）から、国際経営の経営総合および個別機能側面を把握するものである。第二の環境軸は、経営諸環境に関係する分野（政治、経済、法律、技術、社会、文化・スポーツ、宗教）から、国際経営の経営風土側面を把握するものである。第三の地域軸は、事業展開を行う国ないし地域に関係する分野およびコミュニケーションに関わる分野から、国際経営の領域側面を把握するものである。

本学部設置されている専攻科目は、上記の研究・教育体系にもとづいて組織されており、実に幅広い分野にわたっている。これら専攻科目は、必修科目、選択必修科目、選択科目の3つから構成されている。

(2) 必修科目

必修科目とは、その単位を修得することが義務づけられている科目で、国際経営学科に入学した学生諸君すべてが共通に学ぶべき科目として位置づけられている。必修科目として配置されている授業科目は、専攻科目の履修にあたっての基礎学力の修得を目的とする科目と、より高度な国際経営の知識と応用力を養成するための科目とに分かれる。

前者の科目としては、「経営の基礎」、「会計の基礎」、「異文化間コミュニケーション」、「コンピュータ基礎演習」、「コンピュータ応用演習」、「コンピュータ概論」（以上はいずれも1年次配当科目）がある。また後者の科目としては、「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（3・4年次配当科目）がある。合計10科目、計20単位の履修が必修として義務づけられている。以下、それぞれの配当科目について簡単に紹介しておこう。

「経営の基礎」では、経営学の全般的な理解を得るために、経営学で使われるさまざまな分析手法やアプローチについて習熟するとともに、経営が展開される地域性の問題や経営をめぐる社会環境についても理解を深めることを目的とする。

「会計の基礎」では、会計学の基礎科目として、会計に関する基礎的概念や現代簿記の基本的知識を理解するとともに、技術的な記帳・計算・報告の処理能力を修得することを目的とする。

「異文化間コミュニケーション」では、異なる文化や社会環境にある人々が相互に意思を伝達しあい、理解するに際して生じるコンフリクト（葛藤）とその克服のためのルール作りについて、具体的なケースに即しながら、学ぶことを目的とする。

本学部では、今日の情報社会で必要とされる情報リテラシーを学生諸君に学んでもらうべく、一連の情報関連科目群を1年次から3年次まで積み上げ方式で配置している。その中で1年次必修の「コンピュータ基礎演習」と「コンピュータ応用演習」は、ともに基本科目の基礎科目群と連動しながら読み書き能力の支援を行うとともに、情報探索、情報処理、情報発信についての基礎的能力を獲得することを目的としている。

おなじく1年次の必修科目「コンピュータ概論」は、実習を中心としたコンピュータ演習に対して、情報処理に関する理論的基礎の理解を目的としている。2年次以降に配当されている情報科目群の履修のための導入科目としての性格をあわせもっている。

最後に、「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」では、広義の経営学の知識を深めるとともに、それらの知識を土台として幅広い応用力を養成することを目的としている。このために、「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」は、選択した演習を同一教員の指導のもとに2年間にわたって継続して履修することを原則としている。また、「演習Ⅳ（含む卒業論文）」は科目名の示すとおり卒業論文の提出が義務づけられている。

(3) 選択必修科目

選択必修科目とは、指定された科目群の中から必要単位数を満たすべく選択して履修する科目のことである。本学部では、合計28科目が選択必修科目として指定され、そのうち14科目、計28単位以上を選択履修することが義務づけられている。それぞれの科目は、必修科目として配置されている科目の履修を前提に、国際経営に関わる機能、環境、地域の3軸に沿って選択されたものであり、基礎的な科目から始まって専門性の高い科目まで、体系的かつ時系列的な積み上げ方式で年次配当されている。

この中でもユニークなのは、3年次に配当されている「実社会体験研究」である。同授業科目では、学生諸君に実社会とのインターフェースをさまざまな形で実際に体験してもらう。具体的には、企業や非営利団体でのインターンシップ、国内外でのボランティア体験や研修、あるいはプロジェクトの企画・実施などがあげられる。そこで学び取った経験を3年次からの「演習」で理論的に深め、より明確な方向性をもって専攻科目の学修に役立たせることを目的としている。

もちろん、これらの選択必修科目の中からどの科目を選ぶかは、学生個人の専攻する領域や目的に応じて異なってくる。ただし、その選択はコース制と密接な関連があり、諸君が選択したコースの要件に合致する科目を選択することが求められている。

なお、「卒業要件単位数」28単位を超えて修得した単位数は、選択科目の修得単位数に算入される。

(4) 選択科目

選択科目とは、当該科目に配当されている中から必要な単位数を満たして履修することを求めている科目で、その選択は学生個人に大きく委ねられている。本学部での選択科目は135科目、270単位におよび、その範囲は国際経営の学問領域の広がりに応じて実に多様性に富んでいる。この中から、大学4年間でどのような専攻科目を選ぶかについては、慎重な考慮と計画的な履修配慮が必要となる。本学部ではコース制を敷くことで、学生諸君の将来の希望にそった体系的な履修計画をしやすくように配慮している。

選択科目の中で特に注目される科目として、「循環型社会論」（3年次前学期・2単位）がある。この科目は、自然環境との共生を達成して、持続的発展可能な社会を構築するための思想や方法を考察することを内容とするものである。そこでの学修範囲は、既存の知識領域や学問分野を超えて、学際的・総合的な問題を扱うことになる。文系・理系の分野が混合した新しい領域として多様な学修が期待できる。

2. コース別指定科目の履修

5コースのそれぞれの特徴をふまえ、本学部では、各コースに所属する学生が、コース別の特定の科目を履修することを義務づけている。これが「コース別指定科目」である。どのコースもA群とB群に分かれている。A群に指定された科目は各コースとも3科目6単位で、そのコースを選んだ学生はかならず各コースのA群科目の単位を修得することが求められている。また、B群に指定された科目は各コースとも20科目40単位であり、このなかからコースごとに指定された要件にしたがって10科目20単位を修得することが必要である。

コースによってA群とB群にそれぞれ指定されている科目が異なる。このため学生諸君がひとたび選択して所属が決定したコースをのちに変更することは、変更後のコースのA群、B群の指定科目が異なるため、所定の年限で卒業することが困難となるケースも考えられる。したがって、1年次後半におこなうコースの選択は熟慮して行なう必要があり、またコースを特別の事情により途中で変更せざるをえない場合は、所定の年限でコース指定科目の履修が可能かどうか事前に検討しておく必要がある。

(1) マネジメントコース

マネジメントコースでは、A群科目として「経営学総論」、「経営管理総論」、「国際経営論」の3科目が指定され、単位の修得が義務づけられている。これら3科目は、教育課程表の専攻科目のうち選択必修科目となっている。マネジメントコース所属の学生は、選択必修科目から上記3科目を除いた28単位以上を履修することが求められる。なお、上記A群指定科目およびB群指定科目から修得した20単位以上は、専攻科目区分の選択科目として認定され、卒業要件単位に算入される。

(2) 会計コース

会計コースでは、A群科目として「簿記原理」、「会計学原理」、「原価計算入門」の3科目が指定され、単位の修得が義務づけられている。これら3科目は、教育課程表の専攻科目のうち選択必修科目となっている。会計コース所属の学生は、選択必修科目から上記3科目を除いた28単位以上を履修することが求められる。なお、上記A群指定科目およびB群指定科目から修得した20単位以上は、専攻科目区分の選択科目として認定され、卒業要件単位に算入できる。

(3) 経営環境コース

経営環境コースでは、A群科目として「経営環境演習」、「経営環境概論」、「人間関係概論」の3科目が指定され、単位の修得が義務づけられている。これら3科目のうち「経営環境概論」は、教育課程表の専攻科目の選択必修科目となっている。経営環境コース所属の学生は、選択必修科目からこの1科目を除いた28単位以上を履修することが求められる。なお、A群科目の「経営環境演習」、「人間関係概論」およびB群指定科目から修得した20単位以上は、専攻科目区分の選択科目として認定され、卒業要件単位に算入される。

(4) 国際コミュニケーションコース

国際コミュニケーションコースでは、A群科目として「国際コミュニケーション」、「スタディー・アブロードⅠ」、「スタディー・アブロードⅡ」の3科目が指定され、単位の修得が義務づけられている。これら3科目は、教育課程表の専攻科目で選択必修科目となっており、さらに、また、選択必修科目から上記3科目を除いた28単位以上を履修することが求められる。また、当該コース所属の学生は、B群科目として指定されている科目のうち、「コミュニケーション論」を履修することが求められる。なお、上記A群指定科目およびB群指定科目から修得した「コミュニケーション論」を含む20単位以上は、専攻科目区分の選択科目として認定され、卒業要件単位に算入される。

(5) スポーツ&マネジメントコース

スポーツ&マネジメントコースでは、A群科目として「スポーツ経営総論」、「スポーツマンシップ論」、「救急措置法」の3科目が指定され、単位の修得が義務づけられている。スポーツ&マネジメントコースでは、教育課程表の専攻科目のうち選択必修科目から28単位以上を履修することが求められる。また、当該コース所属の学生は、B群科目として指定されている科目のうち、「競技スポーツⅠ」、「競技スポーツⅡ」、「競技スポーツⅢ」の3科目を履修することが求められる。なお、上記A群指定科目およびB群指定科目の「競技スポーツⅠ～Ⅲ」を含む20単位以上は、専攻科目区分の選択科目として認定され、卒業要件単位に算入される。